

## 〈父の不在と家族愛〉

ジャーナリスト  
松本 侑壬子

イギリスのマイケル・ウィンターボトム監督の最新作。原題は「EVERYDAY(毎日)」であるが、終わると最初意味不明に思えた邦題がしっくりとなじんでくる。

父親が刑務所に入っている。何の罪でかはわからない。母親は知っているだろうが、子どもにとってはそんなことよりも、父親が普段家にいないことが問題である。

撮影開始当時八歳、六歳、四歳、三歳の男女四人の子どもらは、実際の兄弟姉妹である。俳優の演じる両親に、まるで実の親子のように懐いて、自然な演技で演技というよりも、五年がかりの撮影でカメラはまるでドキュメンタリーのように、見違えるほど成長を遂げる子どもらの姿を見つめ続ける。

英国東部のノーフォークにある小さな村。朝、まだ暗いうちから母カレンに起こされた子どもらのうち、真ん中の二人

の男の子ロバートとシヨーンの二人が、

母と一緒に電車とバスを乗り継いで出かけだ。眠い目をこすりながら、着いたところは殺風景なコンクリート塀に囲まれた刑務所。子どもにも金属探知機が当てられる厳しい検問ゲートをくぐると、広い体育館のような面会所だ。やがて看守に付き添われた父イアンがやって来る。パパーと駆け寄る幼いシヨーン。クリスマスにみんなで撮った写真を見せる。短い面会時間はアツと言う間に過ぎて行く…。

時にはカレンだけが面会に行く。「前と寝たい」。イアンはカレンにこっそり性的な質問で問い詰めて「あなたとしたい」と言わせる。イアンにとっては、この面会日こそが生きる支えだ。監房に戻ると二人部屋の上のベッドにおお向けになり、さっきの妻や子どもらの表情や声や仕草の一つ一つを飽きることなく繰り返し思い出す。

子どもらにとっても、面会日は緊張しつつも大きな節目だ。「お前が家長だぞ」と言われた一言で、長男ロバートは家の裏の森に銃を持って入り、独りでうさぎを仕留めて戻る。死ぬほど心配した母は驚き安堵しながらも、ひとりで子を育てる荷の重さがズシンと身に沁みるのだ。

昼間はスパーで、夜はスナックで必死に働く華奢な体つきのカレン。孤軍奮闘するカレンを気遣う男友達エディ。車で帰りを送ってくれたり、子どもらを海に連れて行ったり。ときには家で夕食と一緒に食べて行ったり。カレンも癒される。自然に抱き合う夜も。そして、ついにその日が来た。イアンの出所の日が…。

ノーフォークの風景の息を飲む美しさ。まるで何派かの絵画のように黒くはつきりとした雲、一面の水仙、揺れる麦の穂、地平線。夫を待つ間の妻の裏切りの告白を、激情を飲み込み受け止めるイアン。怒りも悲しみも、喜びや優しさとともにひとつひとつ胸に刻み癒しながら、この美しい大地の上で一日ずつを丁寧に生きて行く。

「毎日は時間の堆積」と言う監督の「家族の愛は、父親の長い不在を生き残れるか」との問いかけが、強く胸に響く。



## 『いとしきエブリデイ』

イギリス映画 (90分)

監督：マイケル・ウィンターボトム

出演：シャーリー・ハンダーソン、ジョン・シム 他

公開中

© 7 DAYS FILMS LIMITED 2012. ALL RIGHTS RESERVED.